



古代のファッションデザイナーに学ぼう

～草木染めに挑戦～

そめものの歴史

最も古い染めものの方法は、岩石や土や草木の葉や花等、色が出るものを直接布に擦りつける方法で、日本では縄文時代から行われていたようです。

実際に染めた布が見つかった古い例は、佐賀県吉野ヶ里遺跡から見つかった貝紫で染めた絹布の断片で、弥生時代中期(約2000年前)以降のものです。

また時代はくだりますが奈良時代の記録には、茜草、紫草、紅花、刈安など様々な染めものの材料が見えることから、この頃には華やかな色が生活に彩りをそえるようになったのでしょう。

ここでは手軽にできる草木染めの方法を紹介します。



草木染めの手法

草木染めの方法は、染色材料となる植物を煮出したり、潰して汁を取るなどして染め液をつくり、糸や布を浸して染め、必要に応じて媒染液(※)に漬けて染めあげます。

天然の材料は季節によって含まれる成分が変化するため、同じ材料でも微妙に色合いが変化します。また採取してすぐに使わないと染められないもの、乾燥させても使えるものなど素材により異なります。

用意するもの

- ①なべ
- ②ざる
- ③洗いおけかボール
- ④さいばし
- ⑤さらしかガーゼ
- ⑥染める布
- ⑦染め液の材料
- ⑧媒染剤



☆チャレンジ☆
外へ出て、野生の染めもの材料を集めてこよう



絹布をススキで染めてみよう

1 染め液づくり



生のススキをハサミ等でこまかくきぎみます。



材料を水から煮出し、沸騰した5火を弱め、20分くらい煮ます。



煮出した液をさらしかガーゼで濾します。



この煎じた液が染め液です。

※材料によっては、また水から煮出して、数回染め液が作れます。

2 染める



染め液を 80℃ くらいに熱し、染める布を入れます。
液の中で約 20 分間、さいばしでゆっくりかき混ぜます。



<コツ>
混ぜないで放っておくとムラに染まります。

3

ばいせん 煤染 (あとのページに説明があるよ)



60～80℃ くらいの煤染液に、約 20 分間^{ひた}浸しながらかき混ぜます。

<コツ> ムラにならないよう絶えず混ぜ続けます。

◆染め液は同じでも煤染剤が異なると仕上がりの色が変わります。

☆チャレンジ☆ 煤染剤を2種類用意し、色の違いを体験しよう。

つばきい 椿灰煤染

椿灰少量をさらしにくるみ、お湯の中
でゆすって灰の成分を溶かし込みます。



煤染すると黄色く発色します。

ムラなくかきまぜると
しあがりキレイだよ!



鉄煤染

鉄漿を染めるものの重量の2%くらい、お
湯の中に入れてよく混ぜます。

<コツ> 均一にしないとムラになります。



煤染すると緑がかった灰色になります。

4 洗う



水でよくすすぎます。

5 干す



乾いたら、できあがり!



注意!

お湯を使う時はや
けどに注意!

染めた布は色落ちし
やすいので水洗い、
陰干ししてね。

媒染剤 ここがポイント!



<主な媒染の種類>

◆アルミ媒染:

ツバキ科の木を燻やした灰はアルミニウムを多く含むため、染めものの媒染剤として最良とされ古くから重宝されました。現在はミョウバン(硫酸アルミニウムカリウム)がよく使われます。(ミョウバンの量は染める物の重量の5%くらい)

<燻灰の作り方>



伐採されたツバキの木を集めます。



灰になるまで燻やします。



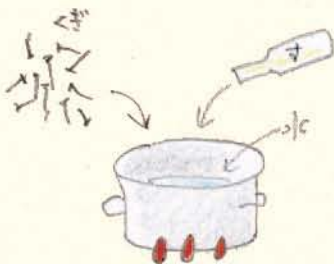
灰が冷めたら缶などに入れて保管します。

◆鉄媒染:

古くは鉄分を多く含む泥や鉱物を利用し、平安時代以後になると鉄漿(お歯黒)^{てつしょう} (お歯黒)^{はくろ}(主成分:酸化第一鉄)を用いるようになります。

<鉄漿の作り方>

古釘、酢、水、各月重量をステンレス鍋で煮て、液の量が半分になるまで煮つめます。



液が冷えたら古釘と分けて酢の入っていた瓶に入れ保管します。(古釘は鉄漿作りにまた使えます)



染色材料植物解説

ススキ (イネ科 ススキ属)

川原や野原、山野などいたる所でみられるお月見でおなじみの多年草。花穂が出始めた頃、根元から刈り取って使います。

ほかにコブナグサ、チガヤ、カリヤスなども同じ方法で染められます。中でもカリヤスは濃い黄色に染める染色材料として昔から重宝され、とりわけ伊吹山産のものは近江刈安と言い、質の良い染料として古くからよく知られます。



木綿や麻などを染める場合



綿や麻など植物性の繊維は染まりにくく、絹や羊毛などの動物性繊維はそのタンパク質と色素が結びつきやすいため染まりやすいものです。植物性繊維には、タンパク質である牛乳や豆乳をしみこませ、完全に乾燥させるとよく染まります。

編集・印刷 滋賀県埋蔵文化財センター
〒520-2122 滋賀県大津市瀬田南大萱町1732-2
TEL 077-548-9780 FAX 077-543-1525
平成23年3月25日刊行